

日時：2019 年 8 月 30 日（金）11 時 30 分～12 時 30 分

場所：岡山大学 創立五十周年記念館 2 階 大会議室

出席者：水木純一郎(会長)、東 正樹、足立伸一、岡島敏浩、尾嶋正治（顧問）、坂田修身（副会長）、田中義人（行事幹事）、辻 淳一、野中敬正、山口浩司、山本 融、有馬孝尚（SPring-8 利用委員長）、片山芳則、金谷利治、岸本浩通、久米卓志、中川敦史（監事）、西原克浩、原田慈久（利用幹事）、藤原明比古（庶務幹事）

幹事・執行部：本間穂高（副会長）、米田仁紀（副会長）、若林裕助、西堀麻衣子、木村昭夫、兒玉了祐、横谷尚睦、西堀英治、大和田謙二、吾郷日出夫、高尾正敏

オブザーバー：大端 通、山口 章、櫻井吉晴、木下豊彦、反町耕記、伊藤博幸

事務局：坂川琢磨

議題：

1. 会長挨拶

参加に対するお礼に続き、審議事項・懇談事項について議論をお願いするとの趣旨の挨拶があった。

2. 議事録確認

藤原庶務幹事から、通常と異なる議事録案送付時期となった経緯の説明、議事録案（資料 1）の評議員会終了までの内容確認依頼が行われた。評議員会終了までに異議はなく、原案にて承認された。

報告事項

3. 行事幹事報告

3.1. 行事開催状況

田中行事幹事から資料 2 に沿って、「第 1 回 BLs アップグレード検討ワークショップ」、「第 19 回 SPring-8 夏の学校」が開催されたこと、「SPring-8 シンポジウム 2019」が開催中であること、「第 3 回 SPring-8 秋の学校」が今後開催されることが報告された。評議員から質問はなかった。

3.2. SPring-8 シンポジウム 2019

資料 3 に沿って田中行事幹事からプログラムの説明があった。評議員から質問はなかった。

3.3. SPRUC 2019 Young Scientist Award 選考委員会報告

資料 4 に沿って藤原庶務幹事から報告があった。尾嶋選考委員会委員長より選考過程の概略が紹介された。評議員から質問はなかった。

3.4. 第 3 回 SPring-8 秋の学校

資料 5 に沿って西堀行事幹事から準備状況について報告があった。企業からの参加者の減少と有料化の関係はしばらく様子を見ること、学部学生の参加が多いとの説明があった。グループ講習を行われる方の推薦依頼が藤原庶務幹事からあった。評議員から質問はなかった。

4. 会計幹事報告

4.1. SPRUC 会計

資料 6 に沿って西堀会計幹事から報告があった。評議員から質問はなかった。

4.2. SPring-8 シンポジウム会計

資料 7 に沿って西堀会計幹事から報告があった。参加人数の増加、岡山大学補助金による当初予算に比べた収入増について言及があった。中川評議員から岡山大学補助金について質問があり、学術会合では会場費相当の補助がある旨、西堀会計幹事から返答があった。

5. 利用委員会報告

5.1. 研究会開催状況

資料 8 に沿って原田利用幹事から報告があった。開催状況は例年通りであること、新分野開拓につながる目的での講演者招待で旅費を支給すること等について言及があった。評議員から質問はなかった。

5.2. 分野融合型研究グループ

資料 9 に沿って原田利用幹事から報告があった。二期四年が完結に必要なとの認識ができたこと、新規テーマ発掘に向けた使命を持つ Science Promotion Board を利用委員会以下に設置する案について言及があった。木下オブザーバーから、施設側の受け皿について、2020B から「新分野創成」から分野開拓に主眼を置く「新分野開拓」への名称変更、二期四年の実施が可能とすること等の説明があった。尾嶋評議員から、当初の四課題のうち報告に登らなかった二課題の状況についての質問、また、成果が上がっているなら第三期があっても良いのではないかとの発言があった。水木会長からバイオ系は課題未提出、化学系は課題不採択である旨の返答があり、サイエンスプロモーションボードへの期待が示された。原田評議員兼利用幹事より、分野融合型研究グループは、もともと、新分野創成課題実施後、研究会として発展させるという目的だったので、チームタイム配分等々の観点で四課題同時ではなく二課題に落ち着いている側面もあるのではとの発言があった。これに対して JASRI では一期での採択は二課題までであるが、複数年の実施期間があるので最大四課題を受け入れられるように制度設計されているとの返答が木下オブザーバーからあった。三期目の継続については、原田評議員兼利用幹事の発言を受ける形で、研究会へと発展させ長期課題等への変更を期待した制度であるとの発言が藤原庶務幹事からあった。

6. その他

その他の報告案件はなかった。

審議事項

7. 会員資格にかかわる会則変更

第一回評議員会にて総会に諮る SPRUC 会則第 2 章第 4 条第 2 項第 3 項の改定案の承認を得たところであるが、その後起案したより適切な文言を用い推敲した資料 10 に記載の再改定案を総会に諮ることについて承認を得たいとの旨、藤原庶務幹事から提案があった。評議員から異議はなく、総会に諮ることが承認された。承認された SPRUC 会則第 2 章第 4 条第 2 項第 3 項の改定案は以下の通り。

2 会員の有効期限は、SPring-8 または SACL A を利用した日から 3 年とし、最後に利用した日から 3 年後の年度末をもって退会したものとみなされ、会員資格を失う。ただし、学生として登録している会員については当該有効期限を 1 年とする。

3 前 1 項のうち、ユーザー登録を必要としない理化学研究所のチームラインを利用する利用者は、理化学研究所在職期間から 3 年後の年度末まで会員資格を有する。

8. 評議員候補者推薦

第一回評議員会にて SPRUC 細則第 2 章第 1 条第 2 項改定の承認を得たところであるが、その後起案した辞退者の扱いを追加した資料 11 に記載の再改定案について承認を得たいとの旨、藤原庶務幹事から提案があった。評議員から異議はなく、細則の変更が認められた。これを受け総会で細則変更を報告すると藤原庶務幹事から発言があった。承認された SPRUC 細則第 2 章第 1 条第 2 項の改定案は以下の通り。

(2) 評議員候補者は、機関代表者からの推薦者、評議員改選時に任期切れで退任となる評議員、および会長が推薦する者 (5 名以内) から辞退者を除き、15 名以

上とする。

9. 所属変更に伴う SPRUC 役職者の扱い

JASRI 理事長就任に伴い雨宮慶幸先生（SPRUC 評議員兼監事）から SPRUC の役職辞退の申し出があり後任の評議員を選出する必要が生じたこと。また欠員発生時の後任評議員の選出方法が規定されていないことが藤原庶務幹事から資料 12 に沿って述べられた。これについて、評議員に欠員が発生した場合は、当該欠員となった評議員が選出された評議員選挙の次点者以降得票順に就任を打診して、後任者を選出すること。また、雨宮慶幸先生には、これまでの SPRUC との深い関係に照らし、SPRUC の各種会議へのオブザーバー出席を歓迎したいこと。の二点の会長案について、藤原庶務幹事から提案があった。

評議員から異議はなく、提案した手順に沿って後任となる評議員を選出すること、SPRUC の各種会議への雨宮慶幸先生のオブザーバー出席を歓迎することが認められた。

10. 次期会長

（本案件は懇談事項であったが、評議員の同意を得て審議事項となったため審議事項として議事録を作成する。）

水木会長から、SPRUC を取り巻く環境に照らし早期の次期会長決定が好ましく、早期の次期会長決定に関し懇談したい旨、資料 13 に沿って発言があった。合わせて会長候補者の資質等に関する三案が示された。

中川評議員からは、評議員会で会長を選出することは変えないが、会長候補者は評議員の中に限らず会長が示した資質を備えた方を選任することに同意する趣旨の発言があった。会長からは、そう言う意味で副会長は候補足り得るが、現在の副会長は次期会長となる可能性をお伝えしてきていないので、今回は、現副会長にお願いするという趣旨では無いとの発言があった。会長に具体的な腹案があるかについて問う発言が坂田評議員からあり、会長からは、過去の SPring-8 シンポジウム開催で責任者となった実績や提示した資質に合致する候補者がいるが、評議員から他の意見がないか確認したいと回答があった。尾嶋評議員から、基本的に会長案に賛成であるが、学会等の実例では、次期会長という役職を作り、早い段階より会長の補佐をしていただく制度がある。SPRUC でも半年前と言わず一年前に次期会長を選出するのも一案との発言があり、これに対し会長から次期会長に議論を委ねる旨の発言があった。その後、新しい意見の表明が評議員からないことを確認した後、会長から、次期会長に関する懇談事項を審議事項に変更し、具体的な次期会長候補を審議し承認を得られれば、次回以降の三者会談にも参加していただき来年度のことも考慮した議論を進める方向で次期会長選出手続きを進めたいとの発言があり、評議員の了解があった。この評議員の了解を受け、水木会長が、広島大学の木村昭夫先生（現 SPRUC 渉外幹事）を次期会長候補として推薦した。審議の結果、木村昭夫先生が次期会長と決した。

懇談事項

11. Science Promotion Board (SPB) の設置

会長から、三月の WS での顧問との懇談で研究活性化に向けて設置提案があったこと、また、分野を超えたサイエンスを議論することで新しいテーマを探せるのではないかと考えてきたという会長の考えを含めた設置の発案に至った経緯について資料 14 に沿って説明があった。金谷評議員から J-PARC の施設について議論した SPB の初期を引き継ぐ形でその後継となる施設を外れた自由なサイエンスの議論をする枠組みが検討されていることの紹介があり、会の運営は大変で良く議論する必要があるが、SPRUC への SPB の設置に賛成する旨の発言があった。岸本評議員から関係団体の中での SPB の位置付けを明確にすることが活動を進める上で重要であるとの発言があり、会長か

ら分野融合の具体的なテーマ提案を依頼したいとの発言があった。またトップダウンで研究を進めるような委員会にはせず、サイエンスの面白さで研究者を巻き込むような委員会にしたいとの発言が会長からあった。原田評議員兼利用幹事から委員の選任について放射光の専門外の分野の方に議論していただくので、国の科学技術動向にも詳しい方を加える方が良い。またこの SPB で決まったことが、評議員会などで公認されることが大事であるとの意見があった。木下オブザーバーから産学連携コーディネーターに名乗りを挙げる方も委員としてふさわしいとの旨発言があった。また産学連携コーディネーターにも名乗りを挙げて欲しいとの依頼があった。

これらの意見を踏まえ会長、藤原庶務幹事から、SBP の設置に向け有馬利用委員会委員長を中心として委員の選任を進めること、分野融合の具体的なテーマ提案を初めの活動内容とすること、木村次期会長も議論に加わっていただくこと等の議論の締めくくりが行われた。

12. その他

会場から議案の提案は無かった。

連絡事項

13. 評議員選挙

次期評議員選挙の日程案が藤原庶務幹事から紹介された。また会員に投票を促すよう評議員への依頼が藤原庶務幹事からあった。

14. 今後の予定

今後の予定について藤原庶務幹事から紹介があった。この際、関係する研究会へ利用動向調査報告書の提出を促すよう評議員へ依頼があった。

次回評議員会、特別総会の日程について候補となる日が示された。

配布資料

参考資料 2019 年度 SPRUC 評議員名簿

参考資料 2019 年度 SPRUC 会長・副会長・幹事

参考資料 2019 年度 SPRUC 利用委員会名簿

参考資料 2019 年度顧問会議顧問名簿

参考資料 2019 年度 代表機関・機関代表

資料 1 前回議事録

資料 2 行事開催状況

資料 3 SPring-8 シンポジウム 2019 プログラム

資料 4 SPRUC 2019 Young Scientist Award 選考委員会報告

資料 5 第 3 回 SPring-8 秋の学校準備状況

資料 6 2019 年度 SPring-8 ユーザー協団体 予算・執行状況

資料 7 SPring-8 シンポジウム 2019 予算・実績

資料 8 研究会開催状況

資料 9 分野融合型研究

資料 10 会員資格にかかわる会則変更

資料 11 評議員候補者推薦

資料 12 所属変更に伴う SPRUC 役職者の扱い

資料 13 次期会長

資料 14 Science Promotion Board (SPB) の設置

資料 15 次期評議員選挙について

資料 16 今後の予定

以上